日韓の鉄道労組が大団結

1650人の労働者・学生が結集し大成功した、国鉄闘争全国運動の全国集会（6月7日 東京・日比谷公会堂）

動労総連合を今こそ全国につくる

国鉄闘争全国運動6・7全国集会は、東京・日比谷公会堂に全国から1650人を結集してかちとられた。解雇撤回・JR復帰を求める署名は10万筆を超え、全参加者が自信を深めた。集会には韓国鉄道労組ソウル地方本部から3人の労働者が参加し、日韓の鉄道労働者の国際連帯を打ち固めた。動労千葉と韓国鉄道労組ソウル地方本部の連名で打ち出された「民営化と闘う日韓鉄道労働者共同声明」（2面）は、全世界の労働者に向けて新自由主義粉砕を訴える歴史的呼びかけだ。また、全国の国鉄労働者が動労総連合建設の決意を表明した。国鉄決戦を基軸にゼネストを切り開く、階級的労働運動の新たなうねりが始まった。（通常号で続報。2面に主要な発言を紹介）

解雇撤回10万署名を達成 6・7集会

解雇撤回闘争の当該とともに署名運動の各地区代表が登壇。10万筆達成の勝利にわく

全国運動の力に自信深め

集会の冒頭、司会を務める動労千葉の関道利執行委員が、解雇撤回・JR復帰の最高裁署名は10万筆を超えたと発表した。会場は大きな歓声と拍手に包まれた。集約された署名数は10万852筆に達した。

全日建運輸連帯労組関西地区生コン支部の平山正行執行委員が開会のあいさつに立ち、改憲と戦争、労働法制改悪、原発再稼働、辺野古新基地建設を強行する安倍政権を弾劾し、「通常国会での闘いが正念場だ」と訴えた。また、関生支部は15春闘で3年連続の賃上げをかちとったと報告し、「運動の発展のためには組織拡大が重要だ。新たな闘いに挑もう」と参加者の奮起を促した。

全国金属機械労組港合同の中村吉政委員長が、大阪市長・橋下徹の「大阪都構想」を粉砕した闘いを報告し、「この闘いが安倍の安保法案にブレーキをかけている」と自信をみなぎらせた。

国鉄闘争全国運動呼びかけ人の宮城盛光・沖縄県北中城村議が「沖縄の現実をゼネストで覆す」と宣言、福島診療所建設委員会の佐藤幸子さんは原発再稼働に向かう安倍への怒りをたぎらせた。

許すな改憲！大行動代表呼びかけ人の高山俊吉弁護士は、改憲・戦争・原発・首切りの安倍打倒へ7・5集会への大結集を呼びかけ、改憲阻止の大署名運動を提起した。

組織と拠点つくる闘いへ

国鉄闘争全国運動呼びかけ人の伊藤晃さんは、「社会の再建は労働運動の再建によるほかにない。その力で戦争を阻止しよう。私たちには明るい未来がある。それは国際連帯だ」と強調した。

動労千葉から田中康宏委員長が、「国鉄闘争支援陣形100万人のうち10万を再組織した。これからの闘いは組織と拠点をつくることだ。国鉄分割・民営化に決着をつけよう」と訴えた。

動労水戸の辻川慎一副委員長は、「原発職場に労働組合をつくると決意した原発労働者と団結し、国家権力を打倒するストライキのできる労働組合、動労総連合を組織しよう」と力を込めた。

万雷の拍手を浴びて韓国鉄道労組ソウル地方本部のパクソンス首席副本部長、キムスンシク連帯事業局長、イムジェチョル清涼里機関車支部長が登壇した。パクソンス首席副本部長がパクチョンソン本部長のメッセージを代読した。それは「28年たっても解雇撤回闘争を闘う同志たちと連帯する。国境はあっても労働者はひとつ。解雇者を復職させよ。民営化を撤回させよ」という熱い思いを込めたものだった。

「民営化と闘う日韓鉄道労働者共同声明」を動労千葉の佐藤正和特別執行委員が読み上げた。

1047名解雇撤回闘争の当該が、全国で10万筆署名を担ってきた仲間とともに登壇。最初に動労千葉顧問弁護団長の葉山岳夫弁護士が「解雇撤回まであと一歩。最高裁は反動判決を出せず、長考に入った。絶対に勝利を」と呼びかけた。

動労千葉争議団の中村仁さんが「判決が出ても本当の勝負はその先だ」と不動の決意を表明し、国労小倉闘争団の羽廣憲さんは「われわれは国労であっても『動労総連合を全国に』の先頭に立つ」と言い切った。

社会破壊するJRと対決

国鉄闘争全国運動・東京東部の会と動労千葉を支援する会・木更津が署名の拡大や特急廃止反対の地域での闘いを報告。

国鉄職場で闘う労働者が登壇した。動労千葉の木更津支部、鴨川支部、佐倉支部、幕張支部の各代表が、千葉鉄道サービスでの組織拡大の闘い、特急廃止との闘い、外注化粉砕の闘いを報告し、新規加入した組合員も力強い決意を述べた。

動労水戸の照沼靖功さん、會澤憲一さんが安全破壊のJRへの怒りをたたきつけ、動労連帯高崎の漆原芳郎副委員長と動労西日本の大江照己委員長は組織拡大への決意を述べた。郡山総合車両センターの橋本光一さんは「動労福島を必ずつくる」と断言し、動労神奈川の中村幸夫委員長は青年組合員への新たな解雇攻撃にストで反撃すると述べ、2人の青年組合員も不屈の闘志を表した。

自治体労働者、三浦半島教組の労働者、弾圧と闘う東京北部ユニオン、全学連の斎藤郁真委員長の決意表明が続いた。

入江史郎ス労自主委員長が行動方針提起で三里塚農地法裁判6・12判決弾劾のデモを呼びかけた。閉会あいさつを行った花輪不二男さんが「1047名解雇撤回、民営化・外注化粉砕、非正規職撤廃へ闘い、新自由主義と闘う全世界の労働者と団結しよう。戦争に向かう安倍内閣を打倒しよう」と集会をまとめた。

この勝利をばねに6・15国会包囲闘争、6・28民主労総ゼネスト連帯集会、7・5安倍をともに倒そう大集会へ。

感動的な集会をかちとり、全員で「団結がんばろう」

動労千葉

国鉄分割・民営化に決着を

委員長 田中康宏さん

解雇撤回・原職復帰の判決を求める署名が10万筆を突破しました。本当にありがとうございます。本当の闘いが今日から始まる。でもこのことの意味は本当に大きい。

1047名解雇撤回闘争は1990年4月1日から始まりました。その前年が総評が自ら解散して連合が結成されるという歴史の大きな分岐点でした。連合結成に強い危機感を持った100万人規模の労働者が1047名解雇撤回闘争のもとに結集してきた。その1047名闘争も政治決着で旗を下ろした。そこから始まった私たちの10万筆署名は、労働運動はこれで良いのか、労働者はもっと誇り高く歴史をつくる存在だと闘い、10万人まで再結集させた。本当に大きいことです。

これからの闘いは職場に拠点をつくり、労働運動の再生の芽をつくり、それをつなげる。そうした時に国鉄分割・民営化で労働運動が後退し、その過程で非正規に突き落とされ、生きる権利を破壊され未来を奪われた現実を、自らの力でひっくり返すことができる。

安倍政権は戦争と憲法改悪に突き進んでいます。戦争情勢は新たな労働運動の解体、再編を生み出そうとしています。これと対決して闘う労働運動をつくり出した時に戦争は止められます。国鉄分割・民営化反対闘争の心棒のもとにあらゆる怒りの声を集めよう。

もう一方で、社会のすべてが崩壊しようとしている。敵は地方自治体の半分が破綻し消滅すると言っています。支配の論理が崩壊しています。この情勢に挑み、われわれが変わった時、労働運動が力を取り戻すと固く信じています。

国鉄では第2の分割・民営化攻撃が始まっています。その柱は、鉄道を動かすすべてを労働者ごと外注化し、突き落とす。これが怒りのかたまりによって吹き飛ばされないはずがない。それはもう始まっています。

この春、JRの下請け会社の8人の仲間が動労千葉に結集してくれました。僕らがこれまでの殻を破って職場で外注化、非正規化を止める、権利の破壊を絶対止めると闘い続けたらすべてが組織化できる時が始まった。

きょうを出発点にして国鉄分割・民営化に決着をつける、民営化を粉砕し外注化を粉砕して、闘う労働組合をもう一回つくり直す新たな決意を込めて進みたい。そのために組織拡大を実現する決意です。動労総連合を全国につくりあげます。

労働者は国境をこえて連帯し、韓国の民主労総のように、沖縄のように、自らの闘いでゼネストをたぐり寄せる闘いをしなきゃいけない。

ともにこれからも進みたいと思います。

前進

週刊

発行所 前進社
編集・発行人 城戸通隆
本社 東京都江戸川区松江1-12-7 振替 00190-0-88857

ホームページ
http://www.zenshin.org/

速報版
2015年第6号
（2ページ－100円＋税）

通常号6ページ
本体300円＋税

購読料（送料別）
開封／密封
1カ月 1512円（ 170／ 416）
6カ月 9072円（1020／2496）
1年 18144円（2040／4992）

神奈川支社 横浜市南区高砂町1-10-38 振替00220-8-75016
関西支社 大阪市天王寺区寺田町2-1-19
中国支社 広島市南区宇品西1-2-36 振替01360-5-30027
九州支社 福岡市博多区半道橋1-7-22 振替01700-6-105428

反帝国主義・反スターリン主義の旗のもと
万国の労働者団結せよ！
革命的共産主義者同盟
全国委員会

現代革命への挑戦
上巻定価2300円＋税
下巻定価2400円＋税

戦争法案粉砕！安倍たおせ！

6・15国会包囲大闘争

6月15日（月）
午前9時～終日 国会前座り込み
正午 霞が関デモ（午前11時45分 日比谷公園霞門集合）
午後6時30分 全国学生集会（参議院議員会館101号室）
呼びかけ／全日本学生自治会総連合

国際連帯の力で戦争を止めよう！ 戦争法を葬り、安倍をたおそう！

韓国・民主労総ゼネスト連帯！ 6・28大集会

6月28日（日）午後1時30分開会
江戸川区総合文化センター・大ホール
（東京都江戸川区中央4－14－1）

民営化と闘う共同声明

日韓鉄道労働者が全世界にアピール

6・7全国集会では、全国鉄道労働組合ソウル地方本部と動労千葉が討論を重ねつくり上げた「民営化と闘う日韓鉄道労働者共同声明」が発表された。日韓の鉄道労働者の誇り高い闘いとその決意に学び、ともに闘おう！（編集局）

私たち日韓の鉄道労働者は、公共部門の民営化・規制緩和・新自由主義的労働政策を粉砕するために共同声明を発し、資本の攻撃のもとで苦しむ全世界の労働者との連帯を求めて闘いに立ち上がることを決意した。

新自由主義政策は、自らが生み出す矛盾をコントロールすることができなくなり崩れ落ちようとしている。いよいよ労働者の団結した力が時代の最前線に登場しなければいけないときが来ている。

新自由主義が生み出したのは、生きる権利を奪われ、未来を奪われた膨大な非正規職労働者であり、格差と貧困の拡大、社会の崩壊であった。新自由主義は、公共交通・社会保険制度・教育・医療など、人が生きていくすべを破壊して暴れまわる力を生み出した。冷たいカネ勘定だけがすべてを支配するようになったのだ。それは韓国ではセウォル号惨事となって304人の高校生をはじめとする多くの生命を奪い、日本では尼崎鉄道事故となって107人の生命を奪った。

金融自由化は世界を駆けめぐる投棄マネーの氾濫（はんらん）を生み出し、バブルとその破綻が繰り返された。そのたびに雇用や賃金が破壊され、膨大な失業者が生み出された。しかも銀行や独占企業を救うために莫大（ばくだい）な国家財政が注ぎ込まれ、財政破綻を生み出した。それを理由にさらに社会丸ごとの民営化や社会保障制度の解体が加速され貧困、民族抑圧や戦争を生み出した。

新自由主義政策は、日本では1987年に強行された国鉄分割・民営化攻撃を突破口として社会全体をのみ込んで吹き荒れるようになり、韓国でも1990年代の後半から本格化し、社会の各部門はもちろん韓国の鉄道にも民営化と構造調整の嵐が吹きつけた。

いま、「もうたくさんだ！」という張り裂けるような怒りの声が世界中に響いている。

韓国労働運動は、民主労総結成から20年、多くの困難を乗り越えて力強く前進し、いま労働市場構造改悪や民営化攻撃に対してパククネ退陣を要求するゼネスト闘争の渦中にある。この情勢をきりひらいたのは2013年12月に行われた全国鉄道労組の23日間の民営化反対ストライキであった。「単一労働組合が起こしたストライキによって、民営化全般に反対する世論が形成されたという点で驚くべき事件だった」と報道されたとおり、その闘いは情勢を一変させる転機となったのだ。

パククネ政権はこの闘いを恐れ、指導部の検挙、130人に及ぶ不当解雇、8600人の職位解除、数百億ウォンの損害賠償や組合財産の仮差押などの大弾圧を加えた。しかし私たちは一糸乱れぬ団結を守り抜いて「2次正常化」攻撃と鉄道民営化のための子会社転換、事業部制の導入を阻止するために力強い闘争を準備している。もしパククネ政権が新自由主義的攻撃を続けて押しつけて来るならば鉄道労働者たちは2013年を超える強力なゼネストで反撃するだろう。

韓国民主労総は4・24の第一次ゼネストに続き、6月末から7月初めに第二次ゼネストを準備している。「反労働・反民主、腐敗した政権を終わらせる労働者のゼネスト――汎（はん）国民的大闘争、終わらせようパククネ！　行こうゼネスト！」がそのスローガンだ。

日本における国鉄分割・民営化攻撃は戦後最大の労働運動解体攻撃として遂行された。20万人の国鉄労働者が職場を追われ、一旦解雇・選別新規採用方式の民営化を合法化した国鉄改革法を背景とした激しい労組破壊攻撃の中で、24万人を組織していた国労は4万人までに切り崩された。その2年後には総評も解散に追い込まれ、その後1500万人もの労働者が非正規職に突き落とされ、憲法改悪や集団的自衛権行使が現実化するその後の道筋が敷かれたのだ。

しかし、動労千葉は二波のストライキをもって国鉄分割・民営化攻撃に立ち向かい、団結を守ってJRにのり込んだ。その後も30年に及ぶ解雇撤回闘争や業務外注化阻止闘争を貫いてJR体制を揺り動かしている。

日本では極限的な業務外注化と労組破壊攻撃を軸とした第2の分割・民営化攻撃が開始されている。

一方安倍政権が改憲と戦争に突き進む事態の中、沖縄では積もりに積もった怒りが燃え上がりゼネスト情勢が一気に煮詰まっている。大阪では「国鉄方式」の自治体丸ごと民営化を狙った「大阪都構想」が住民投票で否決された。

私たちには、同じひとつの攻撃にさらされ、同じひとつの希望に向かって前進する労働者の力強い闘いの声が世界中に響きわたっているのが聞こえる。私たちは歴史の分岐点に生きている。最底辺へと落ち込んでゆく泥沼の競争の中に放り込まれ、侮辱されてきた労働者が誇りと団結をとり戻して立ち上がるときがやってきた。

私たちは、闘いの道を歩み続けてきた鉄道労働者としての誇りをかけて、新自由主義という怪物を打ち倒す国境や産別をこえた労働者の固い団結をつくりあげたいと願い、自らその先頭に立つことを決意して、この呼びかけを発することを決断した。労働者の団結した闘いこそが歴史をつくり、社会を変革する力だ。全世界の労働者の力をひとつにつなげよう。ともに前進しよう。

2015年6月7日
全国鉄道労働組合ソウル地方本部
国鉄千葉動力車労働組合

2013年12月、23日間のストライキを闘いぬく韓国・鉄道労組がソウルで決起集会

ゼネストで勝利を開く

戦争・改憲の安倍倒そう

6・7集会の発言から

国鉄闘争全国運動呼びかけ人

労働運動の持つ力示した

日本近代史研究者　伊藤晃さん

入った国鉄闘争全国運動の意味はますますはっきりしてきました。

労働運動の最大の危険は「自分たちは何もできない」という絶望感、無力感に支配されてしまうことです。今、支配集団は労働運動を完全に破壊し、無力感を強めようとしています。右翼評論家の桜井よしこが「UAゼンセンを柱に労働運動を再編せよ。連合を分裂させよ」と呼びかけた。今年の官製春闘の狙いは、労働者に「自分たちはもう何もすることがない」と思わせることです。

われわれのなすべきことは、労働運動がこの現実に対してできることを社会に示すことです。ここに10万筆署名の成功の意味がある。もちろん直接、最高裁への圧力でもあります。もう一つ、署名の成功は労働運動全体を発展させる可能性を開いた。署名を集める努力はどこでも職場の闘争と結びつきました。これから職場での討論や行動を組織し、この力を確かめ合い、教え合い、交流し合っていきましょう。

動労千葉の館山や銚子の運動、動労水戸の被曝労働阻止の運動は、署名運動のこれからの発展の姿を示しています。社会の崩壊の中で、問題解決の出口を示す役割を全国運動は持っている。社会の再建は労働運動の再建によるほかありません。

最後に、安倍が進めている戦争法案との闘いです。労働運動が労働者を戦争に組織しなければ戦争はできない。そこに安倍の弱点があります。私たちが社会の閉塞（へいそく）状況を労働運動で打開することと、戦争の突進に反撃することには深い関係があります。

私たちには明るい未来がある。国際連帯です。労働者がどういう世界をつくるのか、国際的に広く議論をし、共同の行動をつくり出し、その中で日本の労働運動の任務を果たしましょう。

動労千葉争議団・国労闘争団

団結し大きな火にしたい

動労千葉争議団　中村仁さん

私たち動労千葉が今も闘えているのは、28年前の国鉄分割・民営化に反対してストライキを闘い、28人の解雇者を出したことが一番大きかったと私は思っています。動労千葉の組合員はその人たちを守り、われわれ争議団も守りながら、今も現場でその闘いを実践し続け、そして組織拡大をかちとった。生半可なことじゃなかったと思います。でも一生懸命、真剣になって闘ったからこそ今、動労千葉に青年が結集し、非正規職の人たちが結集しています。

一人ひとりの労働者が応えてくれるということは、自分がどういうふうに労働者に対して思っているかということだと思います。そうしたらきっと返ってくるはずです。組織拡大をみなさんでかちとりましょう。

私たちは闘う労働組合として、労働者と団結して、大きな大きな闘いにしていきたい。まだまだ組合をつくり上げていく。それは私たちの大きな転換点でしたし、はっきり言って単純ではありません。しかし、それをやりきらなければ私たちはただの組合に成り下がってしまいます。私たち国労原告団もさらに団結を固めて、動労総連合を全国につくり上げる闘いの先頭に立って、みなさんとともに闘いぬきたいと思います。

これから本当に安倍政権の打倒へ向かっていくプロセスが始まります。私たちもすべての仲間と団結し頑張ります。ともに頑張りましょう。

動労水戸

原発労働者と団結し闘う

副委員長　辻川慎一さん

原発労働者はあの3・11から9日間、日本の国民を守るために命をかけて原発事故の収束作業にたずさわってきた人です。動労水戸の被曝労働拒否、特に竜田延伸反対闘争を、「君たちの言っていることは百パーセント正しい」と言って支援してくれた。その人が彼の3・11以降の闘い、福島の原発事故がいかにかつてない大事故であるかを話してくれました。いま全力でそのパンフレットをつくっています。

その彼が、「原発に必要なのは労働組合なんだ。原発労働者を被曝させない、それはもちろんだけれども、技術者も自分たちがつくるしかない」、そう言っている。

この原発事故を引き起こし、戦争にまでいこうとしている安倍政権、ブルジョア国家権力を打倒するために、日本全国で原発労働者と団結して闘う労働組合を建設する。ストライキのできる労働組合が必要です。全力で全国もれなく動労総連合の旗を打ち立ててストライキで闘いましょう。

動労千葉木更津支部の山中茂男支部長が４月に動労千葉に加盟したＣＴＳ（千葉鉄道サービス）の労働者とともに登壇、８人の組織拡大を意気高く報告した

韓国・鉄道労組

パククネ政権と断固闘う

全国鉄道労組ソウル地方本部長　パクチョンソンさん

今も全世界に新自由主義の嵐が激しく吹き付けています。資本主義の末期症状である新自由主義は労働者を攻撃し、労働組合を破壊し、労働者を失業と解雇の恐怖の中に押し込めています。

みなさんは今も国鉄民営化に反対し、解雇された同志を支援し連帯し、ともに闘っています。国鉄が民営化されて28年、ひたすら闘争精神であきらめず闘う同志たちを尊敬しないわけにはいきません。私たち韓国の鉄道労働者たちも当然に見習わなくてはなりません。

韓国政府と資本は鉄道を民営化し分割するために絶え間なく攻撃しています。私たち全国鉄道労組は02年から今まで5回のゼネストを敢行し、3回の警告ストを含めて8回にわたるストライキ闘争で民営化攻撃と分割攻撃と闘ってきました。

パククネ政権は今、賃金ピーク制、年俸制、退出解雇制度で労働者と労働組合を攻撃しています。鉄道公社を分割するために物流、施設、車両部門の分離独立攻撃を加えています。民主労総は断固立ち向かいストを敢行するでしょう。鉄道労組も公共運輸労組とともに連帯ゼネストで阻止しぬく準備をしています。

尊敬する国鉄闘争全国運動の同志のみなさん！　国境はあっても闘う労働者はひとつです。みなさんの粘り強い闘争を韓国鉄道労働者、民主労総や公共運輸労組の同志に伝えます。「28年たっても民営化撤回と解雇者復職をあきらめない同志たちと連帯し、共同闘争をしよう」と主張します。

労働者はひとつだ。国鉄解雇者を復職させよう！　鉄道労働者はひとつだ。民営化を撤回させよう！（鉄道労組ソウル地方本部パクソンス首席副本部長が代読）

韓国鉄道労働組合ソウル地方本部のパクチョンソン本部長のメッセージをパクソンス首席副本部長（写真中央）が読み上げた。ともに集会に参加したキムスンシク連帯事業局長（右）、イムジェチョル清涼里機関車支部長（左）

動労総連合つくる先頭に

国労闘争団　羽廣憲さん

国労原告団を代表して決意を述べます。

私たちは解雇撤回の闘いを営々と続けています。それはわれわれは絶対に屈しないという決意の表われでもあります。ここで負ければ青年労働者の未来をも放り投げてしまう、そういう責任があるから、28年たった今も国鉄分割・民営化絶対反対の闘いを継続しています。

その闘いはさらに国際連帯を生み、多くの闘う仲間がすべて階級としてひとつになれるようなところにまできました。

私たちは安倍政権を打倒する闘いの一つの柱として、動労総連合を全国につくっていきたい。私たちは国鉄労働組合です。その私たちが動労総連合をつくる、闘う労働

市東さん農地法裁判

6・12控訴審判決闘争へ

午前11時30分、日比谷公園霞門

6月5日、三里塚反対同盟の市東孝雄さんの農地法裁判において、東京高裁の小林昭彦裁判長は、通知からわずか1週間後の6月12日（金）に判決日を指定する暴挙を行ってきた。断じて許せない三里塚闘争破壊策動である。怒りをもって、反対同盟が呼びかける6・12判決闘争に結集しよう。午前11時30分に日比谷公園霞門に集合し、正午からの東京高裁包囲デモに決起しよう。（判決は午後2時30分、429号法廷。判決後、記者会見と報告会）

〈大恐慌・戦争を革命へ〉の時代に青年労働者・学生とともに進む新聞

週刊『前進』を読もう

『前進』定期購読・見本紙の申込用紙

（A）見本紙を希望します。　（B）定期購読します。

定期購読料 ①1カ月 1512円 ②3カ月 4536円 ③6カ月 9072円（郵送料は別）

見本紙、定期購読、購読期間のご希望のところを○で囲んでください。

お名前

住所

職業、組合、大学など

電話番号

E-mail

①見本紙ご希望の方は、上記項目に記入の上、この枠内を切り取って封書で前進社あてに送ってください。最新号を無料でお送りします。
②定期購読をご希望の方は、現金書留で購読料を送ってください。

■送り先　東京都江戸川区松江1－12－7　前進社

「7・1閣議決定」1周年
改憲・戦争・原発・首切りの安倍をともに倒そう！

戦争法阻止！7・5大集会

7月5日（日）プレ企画　12時30分～
本集会　午後1時～
デモ出発　午後3時30分（予定）
ニッショーホール（消防会館2階）
（東京都港区虎ノ門2－9－16）

アメリカから　シンディ・シーハンさん（反戦の母）
長崎から　城臺美彌子さん（被爆者）
講演　斎藤文男さん（九州大学名誉教授　憲法学）
コント　松元ヒロさん「すべてアベコベ」

主催　改憲・戦争・原発・貧困許さない大行動（許すな改憲！大行動）